

堅信の秘跡を受ける皆さんへ

堅信の秘跡は、とても大切な通過点です。

堅信の秘跡は、これまでよりも責任ある信者にします(大人の信者にする)

18歳未満の人が入ることのできない場所があります。18歳になるとはいることができます。ただ、「入れなかった場所に入ること」がゴールではありません。

同じように、大人の信者になること、より責任ある信者になることがゴールなのではありません。通過点なので、堅信を受けてからの生き方(大人の信者になること、より責任ある信者になること)が大事になります。

【教会のミサに積極的に来ること】

皆さんは教会学校に熱心に来ています。毎週来ています。では教会のミサには、毎週来ているのでしょうか？あまり来ていない人が多いかも知れません。クラブ活動や塾や、時間が重なっていて来ることができないと言う人がいます。

でも日曜日のためのミサは、福江教会は時間を変えて三回ささげられています。夜7時と朝6時と朝9時です。時間を変えたら、重なっているからミサに行けないと言っていた人も参加できるはずです。保護者の皆さんもそれは分かっているはずです。時間を変えて、参加できるミサの時間を確保してください。

もしどうしても、日曜日のためのミサに参加できないなら、一年間で一度もミサに行けないのでしょうか？福江教会は、ほとんど毎日、朝6時にミサをしています。あなたがより責任を果たす信者になりたいなら、あなたの誕生日に、ミサに来てください。この学年が堅信を受けるのは2025年1月19日ですが、堅信を受けた日を忘れないために、毎年1月19日にミサに来てください。主任神父様が堅信を受けたのは1978年11月19日です。

将来皆さんは、結婚するかも知れません。結婚記念日は大切な日になります。「大切な日なので、決して忘れない」と思いますか？それが忘れることもあるのです。決して忘れない日にするために、結婚記念日の朝にはミサに行ってください。ミサの中で、結婚相手に恵まれたことを感謝してください。

もっとずっと先では、結婚した夫婦には子供を授かるかも知れませ

ん。責任ある大人のカトリック信者として、生まれる子供には洗礼の恵みを授けてもらってください。洗礼の恵み・堅信の恵み、どちらも生涯にわたって働く恵みです。神様の恵みが生涯にわたって働くように、責任を持って行動してください。子供が生まれた日、子供に洗礼を授けてもらった日に、同じ日に毎年ミサに行けば、子どもたちに言葉で説明しなくても、いつ生まれたのか、いつ洗礼を授けてもらったのか、覚えてくれると思います。

【受けた信仰の恵みを言葉と態度で表すこと】

私たちは、受けた信仰の恵みを言い表せる人でなければなりません。いちばん分かりやすいのは、「信仰宣言」をちゃんと言えることです。「天地の創造主、全能の父である神を信じます。」これは、「あなたは教会に行っているけれども、何を信じてるの？」と聞かれたときにすぐ返事が出来なければなりません。「わたしが信じていることはこれです」と、ちゃんと言える人になってください。もし必要なら、「信仰宣言」の祈りのテストを、私がしてもよいです。「信仰宣言」が言えない人、自分が何を信じているのか分かっていない人が堅信を受けられるでしょうか？私は、自分が何を信じているかを言える人が堅信の秘跡を受けるのにふさわしい人だと思います。本当は、「ニケア・コンスタンチノーブル信条」というのを覚えてくれるのが理想です。これは、「わたしは信じます。唯一の神、全能の父、天と地、見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主を。」と唱えていきます。「わたしは信じます」と言いながら唱えていくので、「何を信じていますか？」「わたしは（これを）信じます」と、スムーズに返事ができるからです。これまでは、たとえば小学生のあいだまでは、お父さんお母さんと一緒に出かけていました。けれども、これから高校生になり、大学生になり、就職して社会人になると、お父さんお母さんと一緒に動いて回りません。自分一人で動いて回ります。その時に「あなたはなぜ教会に行くの？」「あなたはなぜ、教会を捨てないの？」と詰め寄られたら、自分一人で信仰を表さなければなりません。そのためには、「信仰宣言」を覚えていることはとても大切です。

【秘跡を頻繁に受ける】

七つの秘跡を学びました。洗礼・堅信・聖体・罪の赦し・病者の塗油・叙階・婚姻（結婚）です。秘跡に頻繁にあずかりましょう。一度しか

受けられない「洗礼・堅信・叙階」は別ですが、聖体の恵み、赦しの恵み、病者の塗油は、必要なときに受けることができます。聖体拝領は何度も受けるので心配していませんが、赦しの秘跡は堅信を受けて自分でいつ受けるかを考えて決めて受けるようにしてください。日本で、大きなお祝い日と言ったら、クリスマスと復活祭です。そして神の母聖マリア、聖母被昇天は、皆さんが知っている教会のお祝いでしょう。この、大きなお祝いのミサを、十分に心の準備をして参加するために、赦しの秘跡を受けて下さい。聖母被昇天の前、クリスマスの前、復活祭の前です。堅信を受けて、一人で活動するようになったら、たぶん教えてくれる人はいなくなります。今日覚えて、一人で準備して赦しの秘跡を受けて下さい。

病者の塗油は、「病気などで命の危険がある信者を油を塗って強めはげます」秘跡です。自分自身が命の危険になることはめったにないですが、高齢者（祖父母など）が命の危険になる可能性があります。そのおじいちゃんおばあちゃんの命の危機に、病者を授けてもらうときに出来れば立ち会ってください。命の危険なときに神様が助けをくださることを、秘跡に立ち会うことで学んでください。

結婚は、たぶん一回だけです。カトリック信者同士の結婚になったら婚姻の秘跡にあずかることができます。これはカトリック信者が少ない日本では多くありませんが、結婚の時に相手がカトリック信者でなくても、あとで相手の人が洗礼を受けて信者になったら、結婚は秘跡の結婚になります。あとで婚姻の秘跡の恵みを受ける可能性は十分あります。

【これらすべてに聖霊の七つの賜物がさずけられます】

これらすべてを実行するために聖霊の七つの賜物がさずけられます。知恵と理解、判断と勇気、神を知り、神を愛し、神を敬う恵みは、これらのことができるように、皆さんを必ず助けてくださいます。

今日、主任司祭が話していること、皆さんはあまり分からなかったかもしれません。いろいろ難しいことを言っていたけど、頭に入らなかった。それで終わりかも知れません。けれども、保護者の皆さんは痛いほど話が分かったと思います。ごもったもな話だけれども、実行できていないことがある。だから、話を聞いて、耳が痛いかも知れません。お父さんお母さんがなぜ今日の話が理解できるのか。それは、聖霊の七つの賜物のおかげです。知恵と理解、判断と勇気を、堅信の秘跡で注いでもらったからです。

神様を知り、神様を愛し、神様を敬う心を堅信の秘跡が注いでくださることを、中田神父は一つの体験で味わいました。久賀島に住んでいた中山音春さんという方が、先月亡くなって長崎市の稲佐教会で葬式をしました。

中山音春さんを送り出した兄弟姉妹たちは、中山音春さんの洗礼名を間違えて覚えていました。葬式をするときに、もう一度ていねいに調べて、正しい洗礼名が分かりました。そのため、家族は自分たちの洗礼名も一回ちゃんと調べてくださいとお願いされました。

中田神父は、調べてメモを作ったけれども、その家族にどうやってメモを渡せば良いのか分かりませんでした。調べたメモをずっと持ったまま、渡す方法が分からずに悩んでいたら、今日、中山音春さんの家族が来て、御ミサのお願いと、香典返しを持って来たのです。家族の方から来てくれたので、調べたメモを渡すことが出来ました。中田神父はこの時、「神様は中田神父の悩みを解決してくれるんだ、神様はすべてを知り、どんなこともおできになるんだ」と、神様をもっと知り、神様をより愛し、神様を心から敬うことが出来たのです。これは、堅信の秘跡の時にいただいた聖霊の七つの賜物のおかげだと思っています。

【本当に助けが必要なとき、助けてくれる人がいないかもしれない】
最後に、私たちは本当に助けが必要なとき、助けてくれる人がそばにいないかもしれません。助けてくれる人が必ずいるなら、悩む人はもっと少ないでしょう。私たちにとっても、助けてほしいときにそばにいないかもしれません。けれども、本当に助けが必要なとき、神様はそばにいます。聖霊の七つの賜物で、そばにいることを感じさせてくださいます。

皆さんが本当に助けが必要なとき、知恵と理解、判断と勇気が必要です。それを注いでくれるのが堅信の秘跡です。二学期、しっかり準備して、来年の1月19日、堅信の秘跡を受けるようにしましょう。生涯にわたって、あなたを助けてくれる知恵と理解、判断と勇気の恵みを、これから四ヶ月、楽しみにして待ちましょう。